



2025年11月27日放送

日薬アワー 第58回日本薬剤師会学術大会 「そうだ、薬剤師に聞いてみよう！～プロフェッショナルリズムの涵養～」

日本薬剤師会
常務理事 山田 武志

先日開催された「第58回日本薬剤師会学術大会」についてお話ししたいと思います。

第58回日本薬剤師会学術大会は2025年10月12、13日の2日間、「そうだ、薬剤師に聞いてみよう！～プロフェッショナルリズムの涵養～」をメインテーマに、秋の色づきが深まる京都で開かれました。

会場は、世界的な会議も行われる国立京都国際会館。

今回は現地参加に加えて、会期後にはオンデマンド配信でも視聴できるようにしました。その結果、大会終了時点で8,439名もの方にご参加いただきました。

大会運営委員長を務めた京都府薬剤師会の川上英治（かわかみ えいじ）会長によりますと、意外にも京都での開催は第11回大会以来、なんと47年ぶりとのこと。

今大会を京都で開催するにあたり、賑わいをみせている大阪・関西万博の閉幕時期と重なり、宿泊施設の確保が大きな課題だったそうですが、無事に見通しが立ち、開催が決定してからは、「皆様に満足していただけるように」と、しっかりと準備を進めてきたとのことでした。

京都府薬剤師会は、薬局薬剤師、病院薬剤師、そして学校薬剤師が一体となって活動していることが大きな特徴です。今回の大会でも、その連携の強さがしっかりとみえる大会にしたいとのことでした。

さらに、前回大会に引き続き、大会終了後の11月18日から約1か月間、特別講演や分科会の内容はオンデマンドで配信することになりました。これにより、現地で参加していても時間が重なってしまい、見られなかった講演や、満席で入れなかった分科会も、後日改めてオ

ンデマンドでゆっくりと学ぶという選択肢も増えました。また、今回初めて、オンデマンド視聴でも日本薬剤師研修センターの「研修認定薬剤師制度（PECS）」の単位を取得できるようになり、現地に来られない薬剤師やリアルタイムでは参加できない薬剤師にも学びの機会が広がりました。

さて、ここからは、当日の様子を少しご紹介します。

開会式の幕開けは、とても華やかでした。プレパフォーマンスとして華道「未来流笹岡」家元の笹岡隆甫先生による「京のいけばなパフォーマンス」が披露され、美しい音楽とともに、花が生き生きと姿を変えていく、まさに京都らしい優雅なスタートとなりました。

その後、日本薬剤師会の岩月進会長より、「これまでは、各薬局の個々の努力により、また、薬剤師会組織による会員相互扶助の観点で取り組み医薬品・薬剤師サービスを提供してきたが、今後はそれを「地域体制」の観点から再点検し、再構築することが重要となる。また、地域で生活している住民からの薬局への期待にどう応えてゆくか、そして、どのように『見える化』していくか、これからの地域の薬剤師のあるべき姿を方向付ける、最後の機会と言えるかもしれない。急速な少子化や過疎化が進む人口減少社会の中、地域の医療資源たる薬局・薬剤師にとって今が正念場であり、一方でこれは薬局・薬剤師が地域住民の期待に応える大きなチャンスでもあることを念頭に置いて、この二日間の学術大会が今後の地域における課題に対応され、プロフェッショナリズムの涵養に役立つきっかけとなるよう祈念する」とのご挨拶がありました。

続いて登壇された川上大会運営委員長は、「今回のメインテーマ『そうだ、薬剤師に聞いてみよう！～プロフェッショナリズムの涵養～』は、どんな場面でもお薬のことは薬剤師に訊いてみよう、すべての国民がそう思い、薬剤師がそう思ってもらえるように本気で目指す、そのきっかけになればと考えている。思う存分、学習、仲間との交流を楽しんでいただきたい」と述べられました。

開会式には多くのご祝辞も頂戴いたしました。福岡資麿 厚生労働大臣、あべ俊子文部科学大臣、西脇隆俊 京都府知事、松井孝治 京都市市長、松井道宣 京都府医師会会長から、それぞれ薬剤師への期待と激励の言葉が祝辞として述べられました。

第1部の最後には、川上大会運営委員長より、次回開催地・新潟県薬剤師会の荻野構一会長へ薬剤師綱領楯が引き継がれました。次回、第59回大会は2026年10月11、12日の2日間、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターをメイン会場に「トキメキ 薬剤師の未来へ希望を繋げよう」をテーマとして開催されます。

また、開会式の合間には日薬公式キャラクター「ふあるみん」の着ぐるみが登場。ふわふわの姿に、会場中から歓声が上がりました。「ふあるみん」のプロフィールや47都道府県それぞれの「ご当地ふあるみん」も紹介され、会場は笑顔であふれました。着ぐるみの「ふあるみん」はメインホール前に設置された特設ブースで参加者と写真撮影ができるほか、今大会でしか手に入らない、京都限定「舞妓ふあるみん」シールは大人気で、写真撮影も列ができるほどの賑わいでした。

第2部の表彰式では、令和7年度の日本薬剤師会賞8名、日本薬剤師会功労賞6名の方々に、岩月会長から表彰状と副賞が授与されました。受賞者に対して、薬剤師としての長年の功績に、会場からは大きな拍手が送られました。

第3部の特別記念講演では、京都大学iPS細胞研究所の高橋淳 所長による「iPS細胞が目指す未来」。パーキンソン病治療に向けたiPS細胞研究の最前線などについて紹介されました。

このほか、特別講演では東京大学大学院薬学系研究科 教授で薬剤師の池谷裕二先生による「脳とAI、そして未来へ」と題する講演や、今大会初の試みとして特別講演と府市民公開講座を兼ねて開催した、茂山千五郎家の茂山茂先生による「狂言に描かれる医療と笑い」、華道「未来流笹岡」家元の笹岡隆甫先生による「華道と生薬」など京都ならではの文化と学術が交差する、多彩で魅力的な講演が続きました。

その後は二日間にわたり、18の分科会、226題の口頭発表、305題のポスター発表に加え、会長講演、薬学生ワークショップ、ランチョンセミナー、スイーツセミナーなど多岐にわたる企画が展開されました。

分科会では、地域医療計画で重視される「5疾病6事業」に焦点を合わせ、実践的な対応を強く意識したプログラム編成とし、災害医療、小児医療、新興感染症、糖尿病、心不全、脳卒中など地域医療に直結するテーマで、熱気ある発表と活発な意見交換が行われました。

また、会場周辺には飲食店が少ないことから、ランチョンセミナーに参加されない方に向けて、京都の老舗によるお弁当やスイーツの予約販売も行われ、京都ならではの秋の味覚を楽しむ光景も見られました。

さらに、今回の大会では、タイ薬剤師会のスウィット・ティーラクルチョン会長をはじめとするタイ薬剤師会関係者の皆様が来日。2026年11月にタイ・バンコクで開催予定の「アジア薬剤師会連合学術大会（FAPA2026）」のPRブースを設置し、大会初日には日本薬剤師会との面談も行われ、国際的な交流が一層深まりました。

本会では薬剤師の調査・研究活動への意識向上や、調査・研究内容のさらなる質的向上に資することを目的に、ポスター優秀賞を設けています。今回は305題のポスター発表の中から最優秀賞1題、優秀賞5題を選出。最優秀賞には西岡病院の横山敏紀先生らによる「外来でも実施可能な高齢者における吸入手技習得の予測検査法」が選出されました。

そして、2日目のクロージング企画として、「薬機法改正とこれからの薬剤師」と題した特別鼎談が行われました。「2025年薬機法改正とは何だったのか」と題して前・厚生労働省医薬局 医薬局長の城克文氏が、「薬機法改正を踏まえた今後の薬局・薬剤師」と題して、日本薬剤師会の森昌平副会長がそれぞれ基調講演を行い、日本薬剤師会・岩月会長を交えた3人による、2025年薬機法改正の意義や今後の薬剤師像について熱い議論が交わされ、大会は盛況のうちに幕を閉じました。

最後に、今回の大会を支えてくださった京都府薬剤師会の皆様、そして全国から参加され

たすべての皆様に、心から感謝申し上げます。

来年は新潟での開催です。

テーマは「トキメキ 薬剤師の未来へ希望を繋げよう」。

ぜひ、来年は新潟の地で、また皆さんとお会いできることを楽しみにしております。